

関東大震災から100年、 9月1日(金)全国公開!

前売り鑑賞券発売中 ※詳細は公式サイトをご覧ください。

北海道	シアターキノ
岩手	みやこシネマリーン
東京	池袋シネマ・ロサ
東京	アップリンク吉祥寺
東京	キノシネマ立川 立川高島屋S.C.館
東京	イオンシネマ板橋
東京	イオンシネマむさし村山
東京	イオンシネマ日の出
神奈川	横浜シネマ・ジャック&ベティ
神奈川	横浜シネマリン
神奈川	イオンシネマ港北ニュータウン
神奈川	あつぎのえいがかんkiki ※9月8日(金)より
神奈川	小田原コロナシネマワールド
千葉	千葉劇場
千葉	キネマ旬報シアター
千葉	イオンシネマ千葉ニュータウン
埼玉	MOVIX三郷
埼玉	イオンシネマ川口
埼玉	イオンシネマ春日部
埼玉	イオンシネマ浦和美園
新潟	シネ・ウインド ※9月9日(土)より

9月1日	9月1日
東京	東京
テアトル新宿	ユーロスペース
03-3352-1846	EUROSPACE
	03-3461-0211

静岡	シネ・ギャラリー
静岡	シネマイーラ
愛知	シネマスコレ
愛知	ミッドランドシネマ名古屋空港 ※9月8日(金)より
愛知	刈谷日劇
岐阜	大垣コロナシネマワールド
大阪	シネ・リーブル梅田
大阪	第七藝術劇場
大阪	シネ・ヌーヴォ ※9月2日(土)より
大阪	MOVIX堺
京都	京都シネマ
京都	京都みなみ会館
兵庫	シネ・リーブル神戸 ※9月8日(金)より
兵庫	元町映画館 ※9月8日(金)より
兵庫	シネ・ピビア ※9月8日(金)より
広島	サロンシネマ
広島	シネマ尾道 ※9月2日(土)より
香川	ホール・ソレイユ
大分	シネマ5 ※9月2日(土)より
鹿児島	ガーデンズシネマ

今後上映される全国の劇場情報は右記公式サイトからご確認くださいませ。 fukudamura1923.jp



企画:荒井晴彦
 企画協力:辻野弥生、中川五郎、若林正浩
 統括プロデューサー:小林三四郎 プロデューサー:井上淳一、片嶋一貴
 アソシエイトプロデューサー:内山太郎、比嘉世津子 音楽:鈴木慶一
 撮影:桑原正 照明:豊見山明長 録音:白井勝
 美術:須坂文昭 装飾:中込秀志 衣裳:真柴紀子 ヘアメイク:清水美穂
 編集:洲崎千恵子 助監督:江良圭 ステール:佐藤芳夫 メイクアップ:綿井健陽
 美術監修:磯見俊裕 キャスティング:新井康太、東山光宏
 クラウドファンディング・寄付:越智あい 宣伝:山口慎平 大阪宣伝:松井寛子 宣伝デザイン:100KG
 特別協力:真宗教団連合 集英社 協力:東映京都撮影所 松竹撮影所 モノボライズ
 ©ネパネ 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
 釜山国際映画祭 釜山 NUTRILITE Award 釜山 NUTRILITE Award A・P・M APM
 This film won the NUTRILITE Award at the Asian Project Market 2023 of Busan International Film Festival.
 【2023年 | 日本 | DCP | 英語 | SEPTEMBER1923 | 5.1ch | 137分】 ©「福田村事件」プロジェクト2023
 配給:大塚 製作プロダクション:ドッグシュガー 製作:「福田村事件」プロジェクト
 (株式会社テンカント、株式会社カタログハウス、辻野弥生、株式会社ピカテカース、MBS、株式会社ドッグシュガー、大塚株式会社)



福田村事件

監督 森達也

脚本 佐伯俊道 井上淳一 荒井晴彦

出演 井浦新 田中麗奈 永山瑛太

東出昌大 コムアイ 木竜麻生 松浦祐也 向里祐香
 杉田雷麟 カトウシンスケ ピエール瀧 水道橋博士
 豊原功補 柄本明

関東大震災から100年
いま見たことを、伝えたい



1923年9月1日
11時58分、
関東大地震が発生した。

ストーリー

大

正デモクラシーの喧騒の裏で、マスコミは、政府の失政を隠すように「ぞつて」「いずれは社会主義者か鮮人か、はたまた不逞の輩の仕業か」と世論を煽り、市民の不安と恐怖は徐々に高まっていた。そんな中、朝鮮で日本軍による虐殺事件を目撃した澤田智二(井浦新)は、妻の静子(田中麗奈)を連れ、智二が教師をしていた日本統治下の京城を離れ、故郷の福田村に帰ってきた。同じ頃、沼部新助(永山瑛太)率いる薬売りの行商団は、関東地方へ向かうため四国の讃岐を出発する。長閑な日々を打ち破るかのように、9月1日、空前絶後の揺れが関東地方を襲った。木々は倒れ、家は倒壊し、そして大火災が発生して無幸なる多くの人々が命を失った。そんな中でいつしか流言飛語が飛び交い、瞬く間にそれは関東近縁の町や村に伝わっていった。2日には東京府下に戒厳令が施行され、3日には神奈川に、4日には福田村がある千葉にも拡大され、多くの人々は大混乱に陥った。福田村にも避難民から「朝鮮人が集団で襲ってくる」「朝鮮人が略奪や放火をした」との情報がもたらされ、疑心暗鬼に落ち入り、人々は恐怖に浮足立つ。地元の新聞社は、情報の真偽を確かめるために躍起となるが、その実体は杳としてつかめないでいた。震災後の混乱に乗じて、亀戸署では、社会主義者への弾圧が、秘かに行われていた。

そして9月6日、偶然と不安、
恐怖が折り重なり、
後に歴史に葬られることとなる
大事件が起きる――。

イントロダクション

関

東大震災の発生からわずか5日後の9月6日のこと。千葉県葛飾郡福田村に住む自警団を含む100人以上の村人たちにより、利根川沿いで香川から訪れた薬売りの行商団15人の内、幼児や妊婦を含む9人が殺された。行商団は、讃岐弁で話していたことで朝鮮人と疑われ殺害されたのだ。逮捕されたのは自警団員8人。逮捕者は実刑になったものの、大正天皇の死去に関連する恩赦ですぐに釈放された…。これが100年の間、歴史の闇に葬られていた『福田村事件』だ。

行き交う情報に惑わされ生存への不安や恐怖に煽られたとき、集団真理は加速し、群衆は暴走する。これは単なる過去の事件では終われない、今を生きる私たちの物語。

100年の時を超え、
遂に、実話に基づいたかつてない
日本映画が公開される。

